

## 涌井 史郎氏 東京都市大学特別教授

造園家、岐阜県立森林文化アカデミー学長、なごや環境大学学長

### 生物多様性戦略 = 生物文化多様性戦略

東京農業大学農学部造園学科に学んだ後、(株)石勝エクステリアを設立。国際博覧会 愛・地球博会場演出総合プロデューサーはじめ、ハウステンボス、首都高大橋ジャンクションなど多くのランドスケープ計画に携わる。

国連生物多様性の10年委員会・委員長代理、新国立競技場事業者選定委員会・委員他、国や地方公共団体、各種委員会組織にも多数関わる。東京都市大学特別教授、東京農業大学・中部大学中部高等学術研究所客員教授。岐阜県立森林文化アカデミー・学長、なごや環境大学・学長等に就任。TBS サンデーモーニングにコメンテーターとして出演。



#### <ご講演概要>

- 食は文化である。食文化が栽培から根付いていったことにしっかり目を向けなくてはいけない。「身土不二」即ち人と環境は一体であり、その土地で出来たものを食べることが最も健康である。
- これから農業をどれだけ復活させるか。これは「農の心の回復」「スマート化・イノベーション」「若者の参入」が重要。農業に参入してくる若者の目的は「営利・ビジネスチャンス」と「自己実現の場としての農林水産空間」に二分化する。これをどのように施策とするのが重要。
- 社会的大変容を受け止め、農の心を回復する戦略が必要。①自給率を高めるために集約・規模拡大・スマートをキーワードにした事業的魅力あふれた農林水産空間の形成。②条件不利地には農的国土管理者として居住する魅力を創出。③都市生活者にもライフスタイルとして、農の心を芽生えさせる。
- 自然は資本財であり、グリーンインフラであることを認識し、公益性と営利性の両面を維持することが重要であり、ときにはこの両者を区分することも検討する必要がある。
- （森林伐採、焼き畑等の海外の環境へのインパクトを通じて食料原料調達が行われていること、企業経営、ビジネスをどのように両立させるかということについて、）国際的な動きからすれば、日本の特性に目を向けることが重要。コロナを契機に、人はサプライチェーンにも目を向けるようになった。日常の中で混在しているグローバリズムとローカリズムのハイブリッドを上手く組み立てることが大事。